

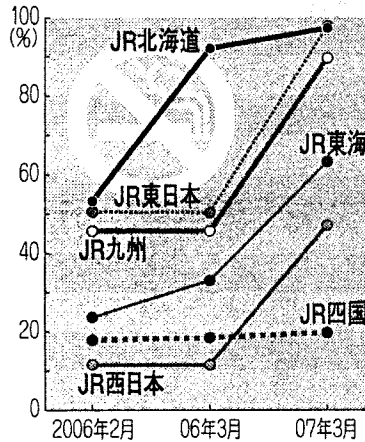
JRの在来線特急で受動喫煙がない空気がきれいな車両の割合は年々増え、JR北海道は97%と高いが、まだ半数に満たない社もある。産業医科大(北九州市)の大和浩教授や、松山管内せ大な町立国保病院瀬棚診療所の吉岡和晃所長らのグループの調査研究でこうした実態が分かった。

二十六日、松山市で開かれていた日本公衆衛生学会総会で発表した。

調査では、二〇〇六年二月、ダイヤ改正後の同年三月、〇七年三月の三回、列車に乗り込み、一

JR特急禁煙 全国ばらつき

JR在来線特急の禁煙化率



日の運行総車両数に対する空気がきれいな車両の割合(禁煙化率)を算出した。禁煙車でも、喫煙車に隣接していたり、デッキに灰皿がある場合などは、空気がきれいな車両には数えない。

JR六社の〇七年三月の禁煙化率は①東日本98%②北海道97%③九州90%④東海63%⑤西日本47%⑥四国20%。増加傾向にあるが、最上位と最下位で約80%の開きがあった。グラフ参照。

北海道は97% 道内医師ら調査

JR北海道について、道内での調査を担当した吉岡所長は「昨年三月のダイヤ改正で、特急の全面禁煙に全国でもいち早く踏み切った。残るは本州とを結ぶ寝台特急」と指摘する。乗車時間が長い寝台特急「北斗星」などは、デッキなど共用部分は全面禁煙だが、寝台個室内は喫煙が自由、個室以外のB寝台車は禁煙車と喫煙車がある。

大和教授は「乗客や乗務員の健康を守るためには受動喫煙の防止が必要」と全面禁煙化を訴えている。